

今期は製造業、来期予測は建設業が悪化するも、全体的には回復傾向か!?

— 2018年10月~12月期 中小企業景況調査報告書概要 —

日銀が昨年(2018年)の12月14日に発表した12月の企業短期経済観測調査(短観)によると、企業の景況感を示す業況判断指数(D・I)は、大企業・製造業がプラス19で、前回9月調査のプラス19から横ばいとなり、前期までの3四半期連続悪化の流れを止めた。企業収益の拡大や7~9月期の自然災害の悪影響の一巡、復興需要などが支えとなった。大企業・非製造業の業況判断指数はプラス24と前回9月調査のプラス22より2ポイント上回り、2期ぶりに改善した。国内消費は堅調に推移しており、景況感が改善した。

中小企業の業況判断指数は、製造業が前回9月調査と横ばいのプラス14、非製造業は前回9月調査より1ポイント改善してプラス11となっており、大企業と同じような動きとなっている。

3か月後の先行きの見通し(2019年3月予測)は、大企業・製造業がプラス15と4ポイント悪化する見通しである。米中貿易摩擦の激化に対する懸念が強く、海外需要の先行きに対する不透明感も強く表れている。大企業・非製造業もプラス20と4ポイント悪化するとみている。人手不足や人件費の上昇などが重荷になっている。中小企業においては、製造業が今期より6ポイント悪化しプラス8、非製造業は6ポイント悪化しプラス5と予測しており、大企業以上に先行きに対する不安を感じており、慎重な見方が多くなっている。

内閣府が12月20日に発表した12月の月例経済報告においては、国内景気は「景気は、緩やかに回復している」という従来の判断を据え置いた。同表現は、昨年の1月から12ヶ月連

続となっている。項目別もほとんどが変更ないが、公共投資は「底堅く推移している」から「このところ弱含んでいる」に下方修正されており、直近の公共工事受注額の減少を踏まえての変更となっている。

商工会地域の景況調査においては、今期(2018年10月~12月)の業況に関するD・I値は、製造業が前期から8.3ポイント悪化のマイナス19.4、建設業が0.1ポイント改善しマイナス16.6、小売業が7.4ポイント改善しマイナス25.0、サービス業が10.5ポイント改善しマイナス6.2となっている。製造業が2期連続で大幅に悪化しているのに対し、建設業、小売業、サービス業はポイント差があるものの改善しており、製造業とは明暗が分かれている。

来期(2019年1月~3月期)の業況予測については、今期悪化している製造業が11.1ポイント改善しマイナス8.3と予測。逆に建設業は6.2ポイント悪化しマイナス22.8と予測している。小売業は5.6ポイント改善しマイナス19.4、サービス業も1.6ポイント改善しマイナス4.6と予測している。

商工会地域の景況感、今期は製造業が悪化し建設業、小売業、サービス業が改善、来期予測は建設業が悪化し製造業、小売業、サービス業が改善となっており、全体的には回復傾向にあると思われる。ただ、今後も原材料高や人手不足、さらには貿易摩擦問題等により事業活動に影響がでてくることが予想され、予断を許さない状況が続くと思われる。

(中小企業診断士 橋本大輔)

業界天気動向図

| 項目 業種 | 売上 | | | | 採算(経常利益) | | | | 資金繰り | | | |
|----------|---------------------|-------------|-------------|---------------|---------------------|-------------|-------------|---------------|---------------------|-------------|-------------|---------------|
| | 1H 30 3年 月 | 4 6 月 | 7 9 月 | 10 12 月 | 1H 30 3年 月 | 4 6 月 | 7 9 月 | 10 12 月 | 1H 30 3年 月 | 4 6 月 | 7 9 月 | 10 12 月 |
| 製造業 | | | | | | | | | | | | |
| 建設業 | | | | | | | | | | | | |
| 小売業 | | | | | | | | | | | | |
| サービス業 | | | | | | | | | | | | |

各項目については次により表示した

| 区分 | 増加 好転 | | やや増加 やや好転 | | 横ばい | やや減少 やや悪化 | | 減少 悪化 | | 大幅に減少 非常に悪化 | |
|----|-------------|--|--------------|--|----------|--------------|--|-------------|--|----------------|--|
| | D・I値(前年同期比) | | D・I値(前年同期比) | | | D・I値(前年同期比) | | D・I値(前年同期比) | | D・I値(前年同期比) | |
| 表示 | 20.1~ | | 5.1~20.0 | | 5.0~△5.0 | △5.1~△20.0 | | △20.1~△35.0 | | △35.1~ | |
| | 快晴 | | 晴れ | | 曇り | 小雨 | | 雨 | | 豪雨 | |

今期直面している経営上の問題点

(数値の左は前期構成比、右は当期構成比を記す)

| 業種 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 |
|-------|--------------------------|--------------------------------------|---|--|
| 製造業 | 1位にあげる問題点 生産設備の不足・老朽化 | 2位 需要の停滞 | 3位 製品(加工)単価の低下、上昇難 | 4位 大企業の進出による競争の激化、原材料価格の上昇、原材料の不足、人件費の増加、従業員の確保難等 |
| 前期 | 20.6 | 14.7 | 11.8 | — |
| 今期 | 30.6 | 13.9 | 8.3 | 5.6 |
| 建設業 | 1位 官公需要の停滞 | 2位 人件費の増加、取引条件の悪化、従業員の確保難、民間需要の停滞 | | |
| 前期 | 35.0 | — | | |
| 今期 | 40.0 | 10.0 | | |
| 小売業 | 1位 大型店・中型店の進出による競争の激化 | 2位 購買力の他地域への流出 | 3位 消費者ニーズの変化、店舗の狭隘・老朽化、仕入単価の上昇、需要の停滞 | |
| 前期 | 18.4 | 23.7 | — | |
| 今期 | 23.7 | 21.1 | 7.9 | |
| サービス業 | 1位 店舗施設の狭隘・老朽化 | 2位 需要の停滞 | 3位 新規参入業者の増加、利用者ニーズの変化 | 5位 材料等仕入単価の上昇、従業員の確保難 |
| 前期 | 19.6 | 21.7 | — | — |
| 今期 | 26.1 | 13.0 | 10.9 | 8.7 |

みんなが生まれたこの世界。みんなが生きていくこの世界。今生きている全員には会えないけれど、みんなはどこかでつながっている。友達の友達の友達の友達。だから一人なんかじゃないよ。